昭和54年度日本気象学会
総会議事録

日　時　昭和54年5月23日（水）15.30～16.30
場　所　気象庁講堂
出席者数　136名
書面参加および委任状　750〃
計　886〃

1. 開　会

小平理事より，総会の成立には，定款第38条により通常会員現在数3,336名の1/5すなわち667名以上の出席が必要であり，委任状によらない通常会員の1/25の133名以上出席を要することになっているが，委任状が750通きており，この会場に133名出席されており，計886名で総会は成立すると開会が宣言された．

議長選出

小平理事より，議長の選出は，定款35条で出席会員の互選により決めることになっているが，慣例により大会委員長を議長に推したいと諮ったところ，満場一致で末広重二大会委員長が議長に決定した．

2. 議長あいさつ

ただいまご指名によりまして，せん越でございますが議長を務めさせていただくことになりました末広です．皆様のご協力によりまして総会が円滑に終了できますようお願いいたします．

3. 理事長あいさつ（岸保勘三郎）

昨年度の新入会員は196名で，現在の会員総数は，3,336名となった．本年度も昨年度に引き続き，一般会員，賛助会員をふやすよう大いに努力を続けたい．

第1回地球大気開発計画（FGGE）は，昨年12月から引き続き本年11月末まで実施される予定であり，現在，観測は順調に行なわれているようだ．また，5月1日～6月30日の期間は，FGGEの特別観測期間となっており，この時期にあわせてモンスーン実験（MONEX）および極実験（POLEX）も実施される．上記特別観測の一環として，啓風丸（気象庁），白鳳丸（東大海洋研）が，現在，赤道地方での観測に参加していることをお知らせする．FGGEの今後の問題として，入手された全地球的膨大なデータをどのように利用するかという大切な問題が残されている．

中層大気プログラム（MAP）の実施については，昨年秋の学術会議総会で政府への勧告がなされたが，学会でもシンポジウムの開催などを通して協力を行なってゆくつもりである．

気候変動の問題は，本年2月WMO主催（於ジュネーブ）の“世界気候プログラム”のシンポジウムで取り上げられ，近く国際学術連合（ICSU）とWMOとの間で，1982年から計画実施のための協定ができる予定になっている．学会としては，シンポジウムの開催，〝天気〟誌上での解説などを通して，この計画に全面的な協力を行なってゆきたいと思っている．

本総会では，山本賞の新設が議題となっているのでご審議をお願いしたい．理事会としては，この賞の設定が，若い研究者の励ましになることを強く確信している．

4. 気象学会賞授与

沢田理事から，選定理由の紹介があり，満場拍手のうちに岸保理事長から次の会員に賞状，賞牌，賞金が授与された．

横山長之会員：大気境界層の構造に関する研究

5. 藤原賞授与

沢田理事から，選定理由の紹介があり，満場拍手のうちに岸保理事長から次の会員に賞状，賞牌，賞金が授与された．

山本武夫会員：日本の歴史時代の気候の分析

6. 昭和53年度事業経過報告

小平理事から次のとおり報告された．

(1) 機関誌は，内容が充実し順調に発行された．〝気象研究ノート〟も予定どおり発行できた．〝天気〟に“ひまわり”の画像を掲載するようにした．〝天気〟は，総頁数926頁で1か月平均約80頁である．〝気象集誌〟は636頁（56巻2号～57巻1号）となり，文部省へ申告の557頁を大幅に上廻った．

(2) 学会賞は瓜生道也会員に，藤原賞は片山昭会員に，それぞれ授与した．また，奨励金は昨年秋仙台の大会で，浦野弘会員（瑞穂中学校），伊豆味正吉会員（沖縄気象台），春日信会員（沖縄気象台）以上2名共同研究，島村泰正会員（高松地方気象台）に，それぞれ贈呈した．

(3) 夏季大学は，回を重ねること第12回となり，定着した感があり104名の参加者があった．最近学生の

第1表　昭和53年度決算書

収入の部

科目	金額	内訳	備考
会費	24,289,406		
雑誌図書頒布	15,577,941		
気象研究ノート		11,616,349	(バックナンバー1,650,000円を含む)
予稿集		1,388,837	
その他		2,572,755	書店扱，用語集，Papers，夏季大学
文部省助成金	1,930,000		
雑収入	8,001,630		別刷，投稿料，広告料，預金利子
前年度繰越金	21,395,321		
合計	71,194,298		
基本金	7,650,000		
藤原賞基金	1,500,000		
退職給与積立預金	420,000		
記念事業積立預金	2,000,000		

支出の部

科目	金額	内訳	備考
図書印刷費	29,998,977		
気象集誌		7,308,898	56/3～57/1
天気		15,400,097	25/4～26/3
気象研究ノート		5,198,760	134～136
予稿集		1,102,150	
夏季大学テキスト他		274,822	
会員名簿		714,250	
図書購入費	257,700		
発送通信費	2,939,184		
気象集誌		387,827	
天気		1,366,166	
気象研究ノート		155,450	
一般通信費		1,029,741	
会議費	1,804,488		会議費の内1,330,000円は総会大会費
学会賞	100,000		
藤原賞	100,000		
奨励金	150,000		
支部交付金	1,288,500		
事務費	6,983,497		
人件費		4,373,131	
物品・印刷費		1,015,950	
雑経費		1,594,416	
旅費	166,000		
退職給与積立預金繰入額	100,000		
予備金	100,000		
基本金繰入額	2,000,000		
記念事業積立預金繰入額	2,000,000		繰越金の内12,343,207円は54年4月～12月分の前納会費
次年度繰越金	23,205,952		
合計	71,194,298		

第2表　　昭和54年度予算書（案）

収入の部 科目	金額	内訳	備考
会費	23,702,800		昭和54.2.1現在の98%
A会費		8,300,000	会員数 2,075名
B会費		8,047,500	〃 1,073名
学生A		100,000	〃 40名
学生B		390,100	〃 83名
外国（個）(A)			
外国（〃）(B)		312,800	〃 34名
外国（〃）(S)		168,000	〃 28名
外国（団）(A)			
外国（〃）(B)		41,400	〃 3名
外国（〃）(S)		259,000	〃 35名
団体(A)		1,652,400	〃 306名
団体(B)		2,181,600	〃 202名
賛助会費		2,250,000	〃 36名
雑誌図書頒布	15,426,000		計 3,915名
気象研究ノート		11,626,000	
予稿集		1,300,000	
その他		2,500,000	
文部省助成金	1,930,000		
雑収入	6,200,000		
前年度繰越金	23,205,952		
合計	70,464,752		
基本金	7,650,000		
藤原賞基金	1,500,000		
山本賞基金	3,000,000		
退職給与積立預金	420,000		
記念事業積立預金	2,000,000		

支出の部 科目	金額	内訳	備考
印刷編集費	32,683,000		
気象集誌		6,775,300	年間 500頁
天気		16,153,500	〃 780頁
気象研究ノート		8,214,100	〃 720頁
予稿集		1,190,100	
夏季大学テキスト他		350,000	
図書購入費	250,000		
発送通信費	4,491,600		
気象集誌		646,400	
天気		1,868,100	
気象研究ノート		977,100	
一般通信費		1,000,000	
会議費	1,815,000		会議費の内1,200,000は総会大会費
学会賞	100,000		
藤原賞	100,000		
奨励金	210,000		
支部交付金	1,327,000		7万円＋(500×地方会員数)
事務費	7,770,200		
人件費		4,990,200	
物品・印刷費		1,000,000	
雑経費		1,780,000	
旅費	355,000		
退職給与引当金	100,000		
予備金	400,000		
記念事業準備引当金	2,000,000		
翌年度繰越金	18,862,952		繰越金の内13,214,100円は55年4月～12月分の前納会費
合計	70,464,752		

参加者が多くなったことは喜ばしい傾向である.

(4) IAMAP, WMOの後援で,「衛星の気象への利用について」のシンポジウムを昨年11月3日～5日の期間に気象庁講堂および学士会館分館で実施したが,70数名の参加者(うち外国人13名)により,熱心な討論が行なわれ大盛会であった.

(5) 昨年12月7日,気象庁講堂で気象庁職員および数名の大学の講師を招聘して「気候変動シンポジウム」を実施したが,熱心な討論が行なわれ,これまた大盛会であった.

以上の報告に対し議長が質問を促したが,質問がないので,賛成者の挙手を求めたところ,全員挙手があり承認された.

7. 昭和53年度会計決算報告

関根理事から第1表の決算書について次のように説明があった.

収入の部では,

(1) 事務局の努力で会費の納入状況は,極めて良好である.

(2) 気象研究ノート,その他の刊行物を〝天気〟に告示し,在庫一掃に努めた結果,165万円の収入があった.

(3) 基本金を200万円増やし,765万円とした.

(4) 3年後に迫った100周年記念事業積立預金として,200万円を計上した.

支出の部では,

(5) 〝気象研究ノート〟の支出が少ないのは前年度に300万円を支出したためである.

(6) 会議費が大幅に増えたのは,53年から支部大会費を40万円から80万円に増額したことによる.

(7) 学会賞,藤原賞は,7万円から10万円に増額した.

(8) 支部交付金は,1人当たり350円を500円に増額したため前年より約18万円の増額となった.

(9) 基本金および記念事業積立金としてそれぞれ200万円を計上した.

8. 昭和53年度監査報告

朝倉監事から,次のとおり監査結果が報告された.

(1) 監査月日　昭和54年5月11日

(2) 監査場所　東京都千代田区大手町 1—3—4　日本気象学会事務局

(3) 監査内容

ア. 昭和53年度決算書

イ. 収入簿

ウ. 支出簿

エ. 現金出納簿

オ. 月計突合表

カ. 備品台帳

キ. 領収証綴

ク. 預金証数および普通預金通帳

ケ. 郵便振替受払通知票綴

コ. 国庫金送金通知書綴

(4) 監査意見

監査の結果,昭和53年4月1日から昭和54年3月31日までの会計年度の決算書は正しいものと認める.書類の記帳は正確であり,整理も極めて良好であり,会費の収入状況は良好であり,会費の前納率は98%に達している.

事務局業務は,事務の能率化,簡素化を計っており,このため財政的に極めて寄与していることを多とする.

また,財政の安定にともない学会活動はいっそう活発化しているが,これは,各理事,各委員の奉仕的な努力に負うところが大きい.

しかし,近く予想される気象研究所の筑波移転,物価の上昇傾向など新しい事態に対処するため,さらにいっそう努力し,学会活動の発展および学会財政の健全化を計るよう希望する.

議長が,以上7,8について質問を促したが別に質問はなかった.採決すると宣言し賛成者の挙手を求めたところ,全員挙手があったので承認された.

9. 山本賞(気象学会の部)受賞者選定規定に関する件

小平理事から,配布した資料に基づき次のとおり説明があった.提案理由については,優秀な新人の研究発表に対して授与すべき適当な賞がないので,理事会としては,新しい賞を設定することを検討し昨年11月14日の理事会で承認された.その直後,名誉会員の山本義一氏から基金を出したいとの申出があったので,これを受け入れることになり,本人の申入れも考慮して山本賞としたものである.

(1) 山本賞受賞者を選定するための山本賞候補者推薦委員会(以下委員会と称する)を設ける.

(2) 委員会は,11名の審査委員をもって組織し,委員は,毎年8月理事長が〝天気〟および〝気象集誌〟編集委員の中よりこれを委嘱する.委員長は,両機関誌編集委員の内のいずれかがこれに当たる.な

お，委員は，気象学会賞および藤原賞候補者推薦委員と重複しても差しつかえない．

(3) 委員会は，原則として前年に発行された〝天気〟および〝気象集誌〟に発表された論文を審査し，その中から基礎研究・応用技術開発を問わず，原則として若い新進の研究者・技術者の優秀論文1篇を選び，その選定理由書をつけて翌年2月末までに理事長に報告する．共著論文の場合は，筆頭著者を該当者とする．

(4) 既に過去において学会賞・藤原賞および山本賞のいずれかを受賞したものは対象から除外する．しかし，山本賞を受賞した者が，その後学会賞または藤原賞を受賞することは妨げない．

(5) 理事長は，常任理事会にかけ全理事に対し無記名によってその可否を投票させる．全投票数は，理事総数の4分の3以上でなければならない．有効投票のうち3分の2以上可とする得点があるものを受賞者と決定する．

(6) 山本賞は，原則として賞状およびメダルならびに副賞（賞金）とし，1件1名のみに対して総会でこれを贈呈する．また，賞金は原則として1件10万円とする．

10. 山本賞の認定に伴い学会賞受賞者選定規定および藤原賞（気象学会の部）受賞者選定規定を一部改正の件

(1) 学会賞受賞者選定規定

(2)に，「ただし藤原賞および山本賞候補者推薦委員と重複しても差しつかえない」を追加する．

(2) 藤原賞（気象学会の部）受賞者選定規定

第2項冒頭の「委員」を「委員会」とする．また，ただし「気象学会賞候補者推薦委員」を「気象学会賞および山本賞候補者推薦委員」とする．

以上の説明に対し，議長が質問を求めたところ，（質問）山本賞の第(1)項に推薦委員会となっていて，第(2)項では11名の審査委員となっているが矛盾してはいないか　との問いに対し，（答）理事会に一任するということで了承された．

ほかには質問がなく，採決した結果は，次のとおりである．

	総人員	可	否	保留	無効
出席会員	136	136	0	0	0
書面参加	750	747	3	0	0
計	886	883	3	0	0

議長より以上9，10の2件については圧倒的多数の賛成により可決成立した旨の宣言があった．

ここで，岸保理事からとくに発言があり，山本義一名誉会員に対し次のような謝辞が述べられた．

皆様方のご賛成により山本賞が圧倒的多数で可決承認されここに山本賞が設定されたことは，学会にとり誠に意義があり，若い研究者の励ましともなり，気象事業の進歩向上に役立つものと確信する．尊い基金をご寄付いただいた山本先生に厚く御礼申し上げる．

11. 日本気象学会定款のうちの細則の一部改正の件

小平理事から，次のとおり提案理由の説明があった．

従来，外国の個人または団体会員は，〝天気〟だけを希望する者以外は，すべてB会員扱いとしていたが，〝天気〟を希望しない会員が多いため，〝気象集誌〟だけの会員（A会員）を認め，会費も特別扱いとしたものである．会費は次のとおりである．

会員種別会費一覧表

区分	種別	機関誌	個人 一般	個人 学生	個人 外国在住	団体
			円	円	円	円
1. 通常会員	A	天　気	4,000	2,500	5,000	
	B	天気および気象集誌	7,500	4,700	9,200	
2. 外国人会員	A	天　気	5,000			
		気象集誌	6,000			
	B	天気および気象集誌	9,200			
3. 団体会員	A	天気または気象集誌				5,400
	B	天気および気象集誌				10,800
4. 外国団体会員	A	天気または気象集誌				7,400
	B	天気および気象集誌				13,800
5. 賛助会員		天気および気象集誌				30,000以上

したがって，細則第17条を次のように改正したい．

第17条　通常会員・外国人会員および団体会員のうちのB会員ならびに名誉会員には，〝天気〟および〝気象集誌〟を無償で配付し，通常会員のうちのA会員には，〝天気〟を無償で配付する．団体会員および外国人会員のうちA会員には，その希望に従い〝天

気″または〝気象集誌″いずれかを無償で配付する．ただし……以下原文に同じ．

これに対し質問はなく，採決した結果は次のとおりである．

	総人員	可	否	保留	無効
出席会員	136	136		0	0
書面参加	750	748	2	0	0
計	886	884	2	0	0

12. 昭和54年度事業計画案

小平理事から，次のとおり説明があった．

(1) 本年は，昨年にも増して〝天気″，〝気象集誌″，〝気象研究ノート″をそれぞれ充実したものにしてゆく．とくに，〝天気″に1月号から掲載している“ひまわり”の画像は好評を博しており，年に数回は色刷りのものを掲載したい．

(2) 夏季大学を引き続いて7月下旬に行なう．今年は第13回で，定着した感じがする．最近学生の参加が多く喜ばしい傾向である．また，はじめての試みで関西支部の協力で8月上旬大阪でも開催する計画である．

(3) 気候変動シンポジウムを引き続いて開催する．

(4) ご承認いただいた山本賞が設定されることにより，理事長も述べたように，今後の気象学の進歩向上に，よりいっそう貢献することが期待できる．

(5) 3年後（昭和57年）に迫った当学会創立100周年記念事業の実施のために，準備委員会を発足させて準備を進めてゆく．

13. 昭和54年度予算書（案）

関根理事から，第2表の予算編成について次のとおり説明があった．

(1) 会費のうちで外国のSとあるのは，さきに11項で説明したとおり，〝気象集誌″だけの会員(A)を認め会費も特別扱いとしたもので，S会員というのではないことをおことわりしておく．

(2) 印刷費は，前年度の8％増を計上した．

(3) 旅費が大幅に増えているのは，従来，常任理事会，理事会の出席者に交通費を支給していなかったが，今年度からは，多少支給することにした．

(4) 予備費が多くなっているのは，100周年記念事業計画打合わせのための経費等として計上した．

(5) 繰越金が減ってゆくが，通常会員，賛助会員を積極的に勧誘し，増加等により収入増を計りたい．

議長が以上12，13項について質問を促したところ，

（質問）支出の部で山本賞が計上されていない．

（答） 山本賞は，来年度から授与することになるので，今年度は計上していないのでご了承願いたい．

（質問）印刷費が8％増と承ったが〝気象集誌″で53年度より減っているがどういうわけか．頁数はアッパーか．

（答） 備考欄の年間の頁数は，予定頁数であって上限を示しているのではない．さきに説明した8％増は，印刷編集費の総額についてのものではなく，1頁当たりの印刷費についてである．

ほかに質問はなく，採決したところ，賛成多数で可決成立した．

14. その他

昭和55年秋季大会の当番支部は関西支部に決定した．

議長 それでは以上をもちまして全部の議事を終了させていただきます．皆様方のご協力誠にありがとうございました．